

	<p>2011年11月15日 第87号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	--

私の散歩考 植物と出会う楽しみ

私の散歩はメタボが話題になる前の現役時代に、昼休みに職場の近くを30～40分散策したのが始まりで、職場は主に深川の木場だったから運河が多く、岸には桜並木が、川を埋めた遊歩道には花壇があり、ボタンやハナショウブやバラなどが観賞できた。また緑の相談所があった木場公園には、多くの樹木や外来の草を植えたスペースも眺めた。キク科の樹木であるハマベノキや梨の原種(?)のヤマナシ、カボチャみたいな花だがヒシの実の角を長くしたような固い実をつけるツノゴマは、初めて此处で見た植物だ。

退職時には歩こう運動が盛んになっていて、万歩計と四国の遍路道の絵図が渡されて、何処まで歩いたかをしるし、一日に3万歩・光ヶ丘までも歩いたりした。

毎日が日曜日になってから13年になるが、当初は週2日のボランティア活動でグリーンホールへ自転車で通い、往復のコースを種々変えて沿道の風物を眺めた。日ごろ重い買い物(牛乳や果物)を分担しているが、いつもデジカメを携え沿道で出会った花を眺め撮影するのが習いとなった。徳丸に住んでから52年、街をよく歩くようになってからは未だ10数年で、昔のことを聞かれても断片的なのが残念に思うことが多い。

歩くことは最も遅い移動手段なので、周りの事物が目にも留まるはずだが、生来の節穴の眼で何も見ていない。同じ道を何回も歩いてから気づく事もある。街中の小さな裏通りも歩くようにしているが、隈なく歩いたなんて言えそうもない。

ヤナギイノコズチ(9月)地味な植物だが赤塚公園大門地区以外ではあまり見かけない。



何処にどんな街路樹があるかとか、何処その公園や民家に何の花木があるかは覚えて、花の咲く季節に尋ねる事がある。冬のロウバイからはじまり、早春のウメ、コブシ、モクレン（白・紫・シデ）に続いてサクラ（染井吉野・山桜・枝垂れ・八重など）、ヤマブキ、ツツジ・サツキ、フジ、アジサイ・・・などなどと飽きる事はない。

家から東・西・南・北と気ままに歩き、買い物で方向を決めたりもするが、夏の暑いときには崖線は木陰が多いのでお気に入りのコースだ。パプルの頃は5号線沿いの植え込みには家電や家財道具や家庭ゴミ袋まで投げ込まれて、はなはだ見苦しかったが、最近はペットボトルやプラスチックの袋が少しある程度になり、気が向けば拾ったりしている。

このコースでは春のニリンソウ、ヤマブキソウ、ジロボウエンゴサク、タチツボスミレ、セントウソウやヤブニンジン、ウラシマソウなどなど色々な花が見られる。樹木にも若葉に個性があって、同じクスノキでも黄色から赤の味を帯びたものまで様々なパッチワーク模様が素敵だ。高木ではサクラのほかにユリノキやトチやハリエンジュ（ニセアカシヤ）、ミズキが崖線に多い。イヌザクラやウワミズザクラも多いが、実を付けて体力を消耗し、花・実は隔年だ（因みに今年が当たり年）。

夏には殖えてきたウバユリがあり、秋にはウワミズザクラやイヌザクラをなど色々な実がある。



左上：ウラシマソウ（4月 赤塚ため池公園付近）

右上：ミズキ（5月 赤塚公園 四葉）

左下：ウワミズザクラ（4月 赤塚公園四葉）

右下：ウバユリ（7月 赤塚公園 大門）



めったに会えなくなった真赤なニワトコの実を初夏に見た記憶もある。

キツネノカミソリに続いて咲くヒガンバナが各所で見られるが、ヒガンバナが纏まって咲くのは区立の向口公園だ。大門のニリンソウ自生地と5号線との間の平地を、ヒガンバナの名所に来たら、とったりもしている。



写真上：満開のヒガンバナ（10月 向口公園）

写真右：ハグロソウ（9月 赤塚公園大門）

写真右下：オドリコソウ（4月、赤塚公園大門）



ニリンソウ自生地には夏から秋にハグロソウ、ヤナギイノコズチ（表紙の写真）、ノブキやミソソバ、キチジョウソウなども咲き、ウバユリの莢果に蟬の抜け殻（空蝉）が沢山しがみついているが、種子が育つと振り落とされるようだ。

繁殖力の旺盛なクサギやコクサギも多く、クサギの花にはアゲハチョウや蜂、ハナムグリなど昆虫が沢山集まる。

最近散歩の途上ですれ違う人や何かを見つめ

ている人、また、庭で園芸を楽しんでいる人に出会うと、声を掛けるようにしている。人恋しく思うことの多い齢になった所為かもしれないが、手入れをしている花を褒められれば嬉しいことを経験している。野の花や生き物についても共感して会話を交わせば、一人黙って眺めているより楽しく、知らない植物の名前を教えられて勉強にもなる（帰宅後思い出せない事が多いが）、一日に10人位と挨拶する事もあり大抵は優しく応じてくれるが、たまに怪訝そうに見つめられると一寸寂しい。

名前の分からない植物や昆虫を見たときは、写真や葉などを持って赤塚植物園で問い合わせ、昆虫などはみんなで調べたり、釣巻さんに写真を送り教えを請うている。最近ではディコンドラ

という外来の草を知ったが、南米産のヒルガオ科のグランドカバー用の園芸種だそう。オドリコソウが生えている付近の一部を覆っているが、此のあたりは春にはヘビイチゴやイヌフグリ等と一緒にフラサバソウが繁茂し、同じ場所を季節で棲み分けている感じた。過ってこの近くにキバナオドリコソウ(ラミウム・ガリオブドロン)が繁茂したことがあったが、みんな誰かが植えた(ハナゲリラした)ようだ。

外来植物といえば、ものすごい勢いで殖えているのが、南米原産のシマスズメノヒエだ。何年前に初めて荒川の土手で見たが、みるみる北進し街の中へと進出している。オヒシバを大きくしたようなイネ科の草だ。また、荒川の土手ではオニノヤガラに似たヤセウツボやヘラオオバコなど、外来植物が土手を北進し、北区・板橋区を越えて行ったようだ。

3年ほど前に西台の道端でボケに似た形の黄色い花を見つけ、通称ミッキーマウスの木(オク



ミッキーマウスの木(7月、赤塚植物園)

ナ・セルラタ)だと教えられたが、花が終わると盛り上がった花托(花床)に数個卵形の種子が付く、やがて花托が真赤で種子が黒くなり、ミッキーマウスを連想できる姿になる。その後、赤塚植物園や高島平熱帯環境植物館などでも展示されるようになったが、熱帯館には少し大型のミッキーマウスの木(オクナ・カーキー)もある。

こんな風に色々珍しい花にも出会え、人に会って花談義が楽しめ、健康増進や買い物の役にも立つ散歩を続けたいと思う。

(猪鼻昭二)

バッタ広場の風景が変わりました

勉強会「ビオトープと管理」における講師尾坂尚之さん(水研クリエイティブ(株))のアドバイスと、会が10年間行ってきた草地管理の経験とあわせて、6頁の「バッタ広場の管理計画」をつくり、管理していくことになりました。赤塚公園サービスセンターから、これまでのような管理は「NO」と言われてしまい、私達も管理者に認めてもらえるようなバッタ広場の管理に変更を迫られたためです。

2月に管理者によって全伐採され、枯れ枝や草も撤去されてスッカランになったさみしいバッタ広場ですが、4月の植物は顔ぶれは変わり、これまで目につかなかったヤブジラミ、イヌムギが増えていました。そしてエノキの切り株から新芽が出てきました(写真右)

夏にはおなじみの植物になって繁茂し、セイ



タカアワダチソウ、コセンダングサ、ヒメムカシヨモギ等の外来種、それに春に芽が出たばかりのエノキも私の背丈ほどに伸びました。植物の生長は早い。イナゴやバッタもいて、動植物の生命の力を感じます。

しかし、私達は植物の高さを70cm以下にすると決めたので、9月下旬に刈り込みを実行しました。刈り取りをまぬがれたのは、身長が70cm未満のチカラシバとササ。大きく育ったエノキも、ひとなでバシッと2分の1ほどに切り詰めました。講師が実際に刈ってみせられた丁寧な作業にはならず、仕事は早かったけれど荒っぽいやり方でした。枝の切り口が尖ったままになり、抜かれて倒れていたコセンダングサは途中から根を出して花を咲かせていました。エノキを全部一気に切り詰めてしまったのはまずかったかなあ、とか、いろいろ気になりました。来年はもう少し早い時期から、こまめに先端を刈ったほうがよさそうです。また、勢いがついてやりすぎないように気をつけなければなりません。

刈り取り作業をした9月24日に何匹かのカマキリが目につきました。

10月に入るとは植物の生長はストップして、バッタ広場全体が枯れ葉色になり、青々として元気がいいのはアズマネザサだけ。今後はますます増えると思われます。

赤塚公園サービスセンターで新しい看板をつけていただきました。

11月12日エコポリスセンターで講座「里山の自然 多摩丘陵から」(講師：明治大学農学部倉本 宣教授)を受講しました。「計画的に手を入れる」ことになったバッタ広場と重なっていろいろ考えました(坂本 郁子)。



写真上：5月21日、明るい草原になった。

写真右上：9月24日バッタ広場の刈り取り作業をした。左の丈の高い植物が刈る前のエノキ、右側は丈の高い植物を刈った後でチカラシバが目立つ。

写真右下：赤塚公園サービスセンターでつくってもらった看板



バッタ広場管理計画

いたばし水と緑の会

考え方と方針：

赤塚城址とそこにあるバッタ広場は、まちなかにもかかわらず豊かな自然をもっています。昆虫相で見れば皇居や目黒自然教育園に匹敵すると思われませんが、残念ながら皇居や目黒自然教育園のように自然の場所として知られているわけでもなく、社会全体で自然を大切にしているとも言えません。

やむを得ず、バッタ広場においては、バッタ広場の自然のすばらしさをアピールすることを第一の目的とします。

公園利用者は自然が好きな人ばかりではないので、当面は(バッタ広場の自然が広く認知されるまでは)高い自然度に固着せず、来園者の好感度を増すことに重点を置き、自然好きでなくても「自然っていいな」とアピールできる環境を目指します。

1 小さい子供達が入りやすいように、子供の目線で見ると

ブッシュ状態は人を寄せ付けないので、木や草丈を全体に低く保つ。

木は常時70cm位に保つ。ローテーションを決めて3年ごとに根元から切る(切る時期は1月以降)。2011年は根元から伐採しているの、今年度は根元から切らない。

周囲の樹木(生け垣)も70cm以下で維持する。

オギは、6月中旬に(生き物が生息していないか確認してから)根元から切る(切ることによって草丈を低く抑えつつ花穂もでる)

観察路を設ける。観察路から草花が見える工夫をする。

2 生物多様性の維持

外来種(ブタクサ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、オオマツヨイグサ、ヨウシュヤマゴボウ、ヒメムカシヨモギ)の駆除。これらは結実する前に駆除しないと翌年確実に増える。

繁殖力の強いクズ、アズマネザサの抑制

刈り取ったものは一箇所に積み上げず、刈った場所に放置する。(根元から刈らず上から数回に分けて細切れに刈る)

3 作業量とボランティアの確保

ボランティアによる2時間の作業の場合、全域の全部の草木の刈り込には1回につき30人程度が必要となる(木や草を細切れに刈る場合)

会では、ここ数年間4、5人程度で年20回程度実施してきた。今年度以降、作業は年12回の予定なので、景観的に好まれる程度に刈るためには、草丈の高い植物や樹木が対象になり、アズマネザサの拡大はやむを得ないこととする。

また、バッタ広場の維持には、ボランティアの確保は緊急課題であり、活動スケジュールの掲示など必要に応じて行い、様々な場を通じてPRをしていく。

4 いたんだ柵の更新

バッタ広場の周囲は100mあるので、柵づくりには技術と人手が必要である。縄結びの技術研修、会員外の参加者の募集等を準備した上で12月以降に実施する。

5 その他

水と緑の会は、年度当初に1年間の作業計画書を赤塚公園サービスセンター長に提出する。

季節外れの暑さにセミも勘違い??

11月5日、日暮台公園で瀬田さんとセミの幼虫を見ました。穴から出ようか、戻ろうか迷っているところでした。「どうして迷っているとわかったか」ですか?。幼虫のお尻が穴の外に出て



いて、土の中に戻るような姿勢だったし、セミの穴にしては大きくていかにも迷って出たり入ったりしているように見えたからです(写真左)。

11月とは思えない暖かい日でした。

私は10月16日に自宅のそばでツクツクボウシの鳴く声を聞きました。この日の練馬気象データを見ると、最高気温が29.6。

セミはちょっと鳴いてみてものの、仲間がないので、それっきり鳴き止んでしまいました。(坂本 郁子)

活動・観察記録(9月~10月)

9月17日(土) 観察会 赤塚公園城址~四葉地区まで

9月24日(土) バッタ広場 高さをそろえて一律刈り込み。

10月15日(土) 強風と雨。のち曇り。明るくなったバッタ広場ではコセンダングサが増えて花が咲き始めていたので実をつける前に抜き取り。セイタカアワダチソウも抜く。チカラシバ増える。9月に刈ったオギにもう新芽が出ている。イヌタデも増えて花。キアゲハ、お腹の大きいカマキリ数匹。ヒキガエル大、ツマゲロヒョウモン、セスジツユムシ、アキアカネ



翅の付け根が黒っぽいのでキアゲハ。翅も破れ、シッポもとれてしまってバッタ広場でじっとしていた。いろいろ大変だったね、と労りたい(10月15日)

活動のお知らせ

11月の運営委員会：11月26日(土) 12:30～13:30

作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラーメン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。

雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。

連絡先；坂本(090-4618-1295)

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：1月21日(土) 12:30～

問い合わせは事務局 瀬田(3969-7124)まで

赤塚ビオトープの観察と環境整備(雨天の場合は観察とゴミ拾い)

飲み物、軍手、タオル、汚れてもよい服装。カメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑等があると楽しい

11月26日(土) 10:00～12:00 バッタ広場の草刈等と現状観察

12月24日(土) 10:00～12:00 清掃とバッタ広場の草刈等と現状観察

1月21日(土) 10:00～12:00 バッタ広場の草刈等と現状観察

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

日暮台公園樹林地観察会(原則として第1土曜日)(樹林地内の植生と推移を観察します)

12月3日(土) 10:00～12:00 日暮台公園前集合

1月7日(土) 10:00～12:00 日暮台公園前集合

明治神宮の森観察会

日時：12月17日(土) 10:00～12:00

森の成り立ちや管理について講義と実際に森を案内してもらいます。

集合場所と時間：明治神宮表参道鳥居前(JR原宿駅下車すぐ)

駅前には混雑するので、神宮の鳥居の右側に集合します。参加される方は坂本まで

FAX：5920-5581 メール：mizumidori@nifty.com

ビオトープ管理のボランティア大歓迎

生き物のすめる草地(バッタ広場)などの管理作業を応援していただませんか。

大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったり、割った竹で周囲の柵をつくったりしています。

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)